

第640回月例研究会 講演要旨

(2025年12月18日講演)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)・インフルエンザ およびその他の感染症と ワクチンの話題 2025

川崎市健康安全研究所 参与 岡部 信彦氏

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、感染症法の第5類感染症となり、早くも2年半ほどが経過し、社会的にはすっかり落ち着いてきた様相となっています。過剰な怖れを持たなくなったこと自体は喜ばしいことですが、一方では消え去ったかのように感じている方々も多くおられます。この数か月は確かに小さい山での動きとなり、一般の方にとっては身近に重症者を感じることは少なくなり「たいしたことない病気にな

った」と思いがちですが、一定数の入院、ICU入室の方などもおられ、注意しなくてもよい疾患になったとは到底言えない状況です。重症化率などもインフルエンザ(季節性)に比べて高く、インフルエンザ以上の警戒感が必要かと思えます。しかし、診断・治療・予防法については、確実に手の内が増え、これらを上手に使い分けながら説明、あるいは経過を見ていくことが出来るようになってきていると言えるのではないのでしょうか。

そのインフルエンザは、COVID-19の大流行をはさんで疫学状況に大きな変化がみられており「例年では…」という説明が通用しにくくなっています。しかし本質的にインフルエンザ(あるいはインフルエンザウイルス)に大きな変化が現れてきたわけではなく、疫学状況を見ながら、こちらが増えてきた手の内を上手に使いながら対応していくことが基本的なことかと思えます。

一方、マイコプラズマ、RSウイルス、溶連菌感染症、食中毒、梅毒などの感染症が、あたかも舞い戻ってきたかのように再び顔を出しています。これらの感染症の現状について当日お話を申し上げたいと思っておりますが、これらの疾患の流れが掴めるのは、医療機関それぞれから報告(届け出)が行われているからこそですので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

COVID-19の出現によって、新たなワクチン(m-RNAワクチン等)の開発導入が急速に進みましたが、この間、あるいはその後にかけて、ロタウイルスワクチンの定期接種化(2020.10)、HPVワクチンの接種勧奨再開(2022.4)、そして9価ワクチンの定期接種導入(2023.4)、ワクチン接種間隔の変更(2020.10)、5種混合ワクチンの定期接種導入(2024.4)、

肺炎球菌結合型(PCV)15価続いて20価ワクチンの定期接種導入(2024.4/2024.10)、新型コロナウイルスワクチンのB類定期接種化(2024.4)、帯状疱疹ワクチンのB類定期接種化と組み換え型ワクチンの導入(2025.4)などが定期接種関連として行われました。また任意接種ではありますが高齢者あるいは妊婦に対するRSウイルスワクチン、経鼻投与インフルエンザ生ワクチン、ダニ媒介性脳炎ワクチン、腸チフスワクチンなどが新たに導入されました。

風疹については5期接種などが導入され風疹対策が強化されてきたところですが、国内での「土着風疹ウイルス」の感染伝播は5年間ないこと、先天性風疹症候群(CRS)は、2021年第2週に1例報告があった以降発生していないこと、などから日本は風疹排除国であることが2025.9にWHOによって認定されたのはビッグニュースで、一線の臨床の先生方、行政の方々、そして一般の方々など多くの方々のご理解とご協力の賜物と、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

講演会当日は、これらCOVID-19、インフルエンザそしてその他の感染症及びワクチンに関する最近の話題についてお話申し上げる予定であります。